



# 道徳教育だより



足利市立矢場川小学校  
平成30年1月31日

道徳の授業は、「お話」を基に、答えが一つではない道徳的課題を、子どもたち一人一人が自分自身の問題として捉え、考えていきます。

子どもたちはいろいろな状況や場面の中で、迷いながらも、判断して行動していきます。そのときどうすればよいか、自分自身で考えることが大切です。さらに、物事を様々な視点から考える力が求められます。そこで、道徳の授業では、話合いを通して、様々な思いや考えに触れるようにしています。

1月24日には、1年生と4年生で研究授業を行いました。今回は、その授業についてお知らせします。

## 1年 道徳の授業「あのね」

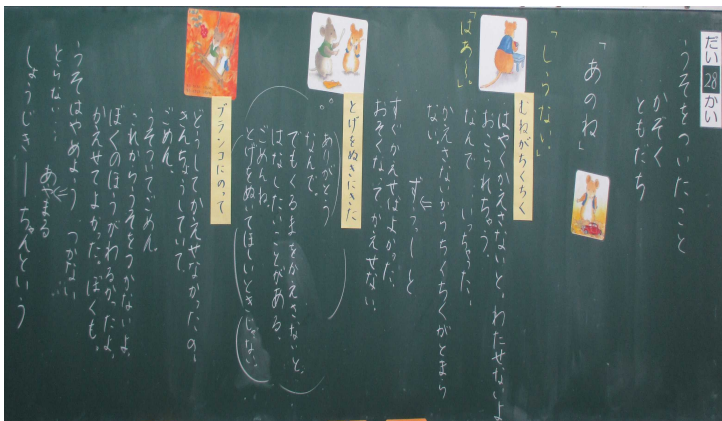


「あのね」という教材を使い、『正直、誠実』について考えました。子どもたちは、「本当のことを言った方がよい」と、正直に言わなければいけないことは分かっています。しかし、叱られたり、責められたりすることから逃れたいという気持ちから、うそを言ったり、ごまかしたりしてしまうことがあります。そこで、正直に話すことが心の引っかかりを取ることに気付かせながら、素直にのびのびと生活することのよさについて話し合いました。



### 「あのね」 あらすじ

おもちゃの車を拾ったチッチが、友達のとーびーに車のことを聞かれ、思わず「知らない」とうそをついてしまう。何気なくごまかしたチッチだが、そのうそがずっと心に引っかかり、気持ちがすっきりしない。そうとは知らないとーびーは、元気がないチッチを心配し、優しい言葉をかける。思いもよらない言葉を聞いたチッチは、良心が痛み、うそをついたことを正直に話す。また、とーびーもうそをついていたことを告白し、互いに正直に話すことで、心に刺さったとげが取れ、心が晴れる。



話合い後、次のような感想を持ちました。

- 本当のことを言うと、すっきりするのが分かりました。どうしてかというわたしもちゃんと覚えてすっきりしたからです。
- 今日勉強をして、うそをついたら自分がこまるって分かりました。
- チッチはうそをついて悪いと思ったけど、後で正直になれたからいいと思いました。
- うそをついてしまったけど、ちゃんとごめんねって言えたのがすごくえらいと思いました。

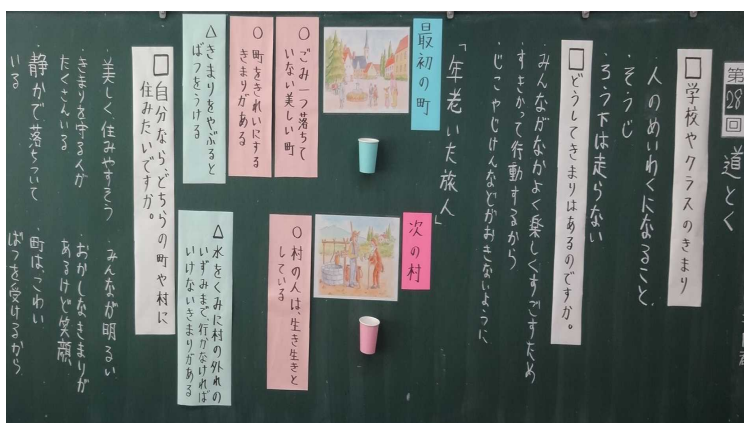
## 4年 道徳の授業「年老いた旅人」

「年老いた旅人」という教材を使い、『規則の尊重』について考えました。子どもたちは、きまりは守らなければならないという意識はもっています。しかし、教師や大人の前だけできまりを守っていたり、仲がよい友達が約束やルールを守らなかったときに、見て見ぬふりをしたりすることがあります。きまりは、安全によりよく生活するためのものであり、褒められたり怒られたりするから守るものではないというきまりの意義を理解させ、進んできまりを守ろうという能動的な態度を育てたいと考えました。



### 「年老いた旅人」 あらすじ

旅人が安住の地を探して旅をしている。大きくてきれいな町に着くが、罰を恐れてきまりに縛られている姿を見る。次に着いた小さな村では、村人が自分たちのきまりを大切に守り、生き生きと生活している。町の人々は役人に罰せられることを恐れてきまりに従っているのに対して、村人は、村にたった一つの井戸の水を旅人と病人のために使うという風変わりにも思えるきまりを、主体的にしかも、誇りに感じながら守っている。



話合のの、後、どんな気持ちで  
 きま聞い守る。ていけるよいか  
 をみ出たま。ところ、次のよ  
 見がみんなが。あ、気持ち  
 ○みょうにが、よく過ごせる  
 ○みんになが、楽しく過ごせるよ  
 ○みにという、気持ちで  
 ○みんが、過ごしやすいよう  
 ○みんのため、きまりを守る。  
 ○いうや、人が一人でもいないよ  
 うに

だれもが「よりよい自分になりたい」という気持ちをもっています。しかし、心の弱さに負け、うそをついてしまったり、きまりを破ってしまったりしてしまふことがあります。分かっている、できないことは誰にでもあります。道徳の時間は、気持ちはあってもできないことがあるということ認めながら、「どういう行動を取るのがよいことなのか」「どんな気持ちで行動するのがよいのか」といったことを、考えています。

日常生活のいろいろな場面で見られる道徳について、ご家庭でも話合ってみてはいかがでしょうか。